

新 生



東北新生園入所者自治会

令和三年三月十日印刷
令和三年三月二十日発行

新生第七十三巻 第一号

新 生

令和三年三月十日印刷
令和三年三月二十日発行

第七十三巻 第一号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男15名 女30名 計45名
職員定員数	142名（令和2年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



— 令和3年1月12～15日 —



【謝寄贈凶書欄】

令和二年 十月～十二月
(敬称略)

※ 新型コロナウイルス感染防止のため、活動中止

人生の並木道	多磨	菊池野	高 楓	愛 生	青 松	始良野	甲田の裾
大阪府	東京	熊本	岡山	群馬	岡山	鹿兒島	青森
川崎	都多磨	菊池恵楓園	邑久光明園	栗生楽泉園	大島青松園	星塚敬愛園	松丘保養園
正明	全生園						

令和3年3月10日 印 刷
令和3年3月20日 発 行

発行 東北新生園楓会(自治会)
編集 楓会文化部
印刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
發行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十三巻第一号……………目次

表紙写真…「スイレンの池(オオハクチヨウ)」…撮影 事務長 加藤 久弥

年頭によせて……………楓会会長 久保 瑛二(2)
天才ギタリスト山下和仁の話……………園 長 横 田 隆(4)
定年退職を迎えて……………薬剤師 森 田 睦子(9)
定年退職を迎えて……………看護師 浅 野 明子(11)
定年退職を迎えて……………准看護師 石 川 正子(13)

|| 新生文芸 ||

詩……………選 者 佐々木 洋一(14)
短 歌……………選 者 皆 川 二郎(17)
俳 句……………選 者 山 田 桃 晃(19)
川 柳……………選 者 栗 石 隆 子(21)
消防訓練……………庶務班長 松 本 宣 仁(24)
新型コロナウィルス感染症と人の心……………看護助手 熊 谷 信 裕(28)
四コマ漫画「春よ来い」……………堀 江 由 美(30)
園内日誌・謝寄贈図書

年頭によせて

楓会会長 久保 瑛 二

令和三年の年頭に当たり謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は会員の皆様をはじめ、多くの方々の暖かい御指導と御支援を頂き、会務を果たすことが出来ましたことを、心より御礼申し上げます。

さて、当園の先行きを考えるとき、特に思い出されるのは一九〇七年に始まった日本のハンセン病隔離政策は、一九九六年にその法的根拠であった「らい予防法」が廃止され、ピリオドが打たれました。

思うに二〇〇一年には、熊本地方裁判所判決によって「らい予防法」は憲法に違反することが明らかにされ、控訴断念によって判決が確定し、政府と国会が謝罪するという異例の展開をたどりました。

こうした「らい予防法」の廃止から既に二十五年も経っています。

一九九六年には、「遅きに失し、したとはいえ」わたくし達にとっては、隔離による様々な差別を受けて来た者にとって、さらに一言、言わせてもらうなら、地域から社会のみならず追放され療養所に囲い込まれ、平均年齢もここへ来て八十八・五歳ともなり、過去形となりますが、六百六拾人程の入所者も、今日現在では四十五人となりました。

従って、開園以来の物故者数については、昭和十四年十月二十七日から至る、令和二年十二月まで鬼籍に入った方々は「八五六人」とも数えております。

国は長年に亘って強制隔離絶滅政策を推進、また官民一体となって無らい県運動を起こし、前段で話した通り、ことごとく子供であれ、大人であれ、一般社会から追放され、すべてを失い、人権は勿論のこと、本名さえも偽名にされ、自分の一生はなんだったのか、老い先の短い身を嘆いております。

国を挙げての強制隔離政策は、過去の数々の過ちをかえり見るとき、二〇〇三年ハンセン病問題基本法が施行され、考える事は入所者が減少しても、入所者の意に沿わぬ合理化は進めてはならないと考えております。今年は特に新型コロナウイルスの罹患者が増える中、思うに私たちの辿った強制隔離の過ちを二度と繰り返させぬためにも、偏見差別はあってはならないことだと常々考える日々である。

本年も何卒格別のご支援、ご高配を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げ年頭の挨拶と致します。

天才ギタリスト山下和仁の話

園長 横田 隆

【昭和五〇年頃のテレビとは】

今回の話は日本のギタリストについてです。まさに日本が生んだ大天才です。私が最初に認識したのは大学に入学して二年が経ってからでした。仙台に出てきて一人暮らしをして二年、アルバイトで買ったテレビ、今のような大きなものではなく、ポータブルで小さいものでしたが、テレビ人間の私を満足させるには十分なものでした。その頃は部屋にアンテナの端末などなく、卓上アンテナが主流で、アンテナの調節に苦労することも多かった。ちよつとした加減で映りがよくなったり悪くなったりします。友人が訪ねてきて

宴会をしているときなども、友人の立つ位置により、テレビの映り方が変わったものでした。

「おお、ちよつとそこにしばらく立っていてくれよ」などとテレビの映り具合を見ながら友人に頼んだものでした。

その当時によく見ていたテレビ番組はまず皇室もの。日曜日の朝六時から放映される「皇室アルバム」や「皇室ご一家」などを早起きして正座して見ていたものでした。そのような学生時代を知っている東北大の同期の連中は、私が後年、東北新生園に勤務して、皇室の方々をお迎えすることになった時に「皇室に関わるには学年一適役」と言ってくれたものでした。

そんなテレビは、その当時の世間の情報を得るための大切なツールでもあり、録画が出来ない時代のドラマなど、本当に真剣に見たものでした。ドラマは少年時代より心惹かれ

ており、のめり込んでいました。通常は一回の放送でもう終わりで、繰り返し見ることで出来ません。ドラマの中のセリフの一言一言を頭に刻み込んだのです。

その中で最も傾倒したのが「今はバラ色が好き」というドラマで、近藤正臣、中田喜子、松坂慶子などが出演していました。毎週木曜日九時から放送していたことも覚えています。木曜日は大学の授業を三時前に切り上げて、同級生には「ちよつと体調がすぐれないので帰るね・・・」と言い、三時から開いている銭湯で風呂につきり、風呂上がり四時から八時まで昼寝をしたものでした。ちゃんと目覚ましをかけ、万全の体調で九時からの「今はバラ色が好き」に臨みかけたのです。番組の途中で眠くなるなど、自分の心の中では許されませんでした。心を揺さぶれるドラマでした。同級生で後年、順天堂大学の耳鼻科教授になったI君などは金曜日の朝、体調は

どうか・・・など心から心配してくれて恐縮したものでした。

【「オーケストラがやってきた」に山下少年が登場】

そんな中、日曜日の午前中に「オーケストラがやってきた」という、山本直純さんの主催する音楽番組もお気に入りの番組でした。山本直純さんは非常に能力のあるお方でしたが、破天荒の生き方で色々と物議を醸していました。ある政党の応援歌を作ったために、別の主義主張をする団体から抗議をねじ込まれたり、無免許運転をするなど様々なことを乗り越えてきました。ただ音楽に対する真摯な態度は好感が持て、不祥事にもそれを撥ね除ける才能があったのです。テレビ番組の「オーケストラがやってきた」も質の高いものだったと記憶しています。

日曜日の朝に「オーケストラがやってきた」

を見ていたときのことでした。「新人ギタリスト現わる」という銘打った内容でした。番組ではその新人だけではなく、その当時、以前この「新生」に取り上げたスペインの大家であるナルシソ・イエパスに師事し、帰国後に一世を風靡した日本人ギタリストも出ており、オーブニングはその有名なギタリストが何小節かを弾く、その後新人ギタリストが同じ音楽のその部分を弾く・・・ということが始まりました。

新人ギタリストは高校生で、海外のギターコンクールで優勝したという触れ込みでした。その時が初めて「山下和仁」を見た瞬間だったのです。

番組が進みます。司会者が山下君に尋ねます。最近どのような曲を練習しているのか・・・と。

「新世界より」ですと。

新世界の一節をギターで再現しました。それ

はまさにドボルザークの世界でした。オーケストラのスタッフが番組に参加しており、感想を聞かれたコンサートマスターは「今後、この曲はギターで演奏した方がよいのではないでしょうか」と自嘲気味に言ったものでした。それは数年後に、ドボルザークの「新世界より」が全曲ギターで編曲され、山下君の演奏でCD化したのです。

【度肝を抜かれた「チゴイネルワイゼン」】

番組の最後でなんとあのチゴイネルワイゼンがギターで弾かれたのです。バイオリン曲として非常に有名な曲ですが、オーケストラをバックにギター協奏曲のようなものになるとは誰もが考えなかったと思います。司会者が山下君に「演奏ではどのような工夫を？」と尋ねたとき、一言、「いろいろ」と答えたのでした。あまり愛想がないなあと思いつつ、見入っていました。

曲が始まると、ギターとは思えないほどの音量でしかも演奏スタイルに鬼気迫る迫力があり、芸術の神が乗り移ったのでは・・・と思わせる情景でした。バイオリンでも速いフレーズは難しいと思いますが、ギターではおそらくは困難を極める、そう思います。それを何気なく弾き終えたのです。この少年は今後どうなるのだろうか、とその時思ったものでした。

【その後の山下和仁】

「オーケストラがやってきた」の衝撃的デビューからずっと私はウオッチャーとして彼を注目しておりました。その後は「展覧会の絵」をギターで演奏したり、ベートーベンのバイオリン協奏曲をギターで演奏するなど、次々と活躍していきました。「展覧会の絵」の発表した年、スペイン音楽の評論家である、高名な濱田滋郎さんがその年の「心に残った

今年の演奏会」のナンバーワンに選んだものでした。その選考会で、他の審査員から、「ギターで演奏してもオーケストラの音楽に太刀打ちできないのではないか」と質され、濱田氏は「オーケストラのスコアを見ながら演奏を聴いていたが、一つとしてギターだからと言ってごまかすところはなかった。まるでオーケストラを聴いているような気持ちにさせられた」と答えています。ちなみに濱田氏のお父上は「泣いた赤鬼」の作者として有名な方でした。覚えておられる人も多いと思います。

一度だけ山下君の生の演奏会に行ったことがあります。全曲素晴らしいものだったのですが、特にアンコールで弾いた「アロンソの結婚」は絶品で、弾くにつれて会場からため息が漏れたのです。ため息が次第にどよめきに変わり、終わった後の満場の拍手の中で、隣の観客が「バケモノだな・・・」と言ったの

を覚えています。それほどすさまじい音楽でした。それももう四〇年も前のことです。長い年月が経っても一つも印象が薄れないので、よほどのインパクトだったのでしょうか。今は彼は何をしているのでしょうか・・・あまり音沙汰を聞きません。せつかくの才能です。再び世界に羽ばたき、また「チゴイネルワイゼン」を聴かせてほしい、そう願ってやみません。



定年退職を迎えて

薬剤師 森田 睦子

この度、定年退職を迎えることになりました。

社会人になって数年間、仙台の調剤薬局に勤務しておりましたが、結婚を機に宮城県を離れました。ご縁があり、平成二十四年から東北新生園の薬剤科に勤務させていただくことになりました。

今まで調剤薬局勤務の経験のみで、療養所での勤務とはまどいの連続でしたが、皆さんから丁寧に仕事を教えていただき、今日まで続けることができました。本当にありがとうございました。

東北新生園では、広大な敷地の中に桜や蓮

の花などがあり、紅葉など、四季折々の自然の豊かさを堪能できました。

官舎からの通勤途中に出会った雉やりす、うさぎなどは、とても可愛らしく、日々の楽しみになりました。たまに、ヘビとの遭遇もあり、その時は、びっくりして逃げました・・・。

帰り道に、夜空を見上げると満天の星が輝いており、私の癒しとなりました。

園内の行事にも色々参加させていただきました。

平成二十六年の天皇皇后両陛下の行幸啓の折には、身近にお目にかかる事が出来て、とても感激いたしました。

平成二十九年十月には、園の皆さんと一緒に、定義如来へバス旅行に出かけました。大倉ダムを車窓から見学し、その後、定義如来で昼食をいただいて、周辺を散策したりと、楽しい時を過ごさせていただきました。

少年少女野球大会では、アナウンスを担当しましたが、バッターを呼び出すタイミングが合わず、ご迷惑をおかけしました。

他にも、観桜会パークゴルフ大会や夏祭り、花火大会など、数えきれない程の楽しい思い出でいっぱいです。

また、学会や研修会にも参加する機会をいただきました。学会では、他の園の方々との交流の機会があり、色々なお話を伺う事ができ、大変貴重な体験をさせていただきました。薬剤師としての知識を幅広く吸収することができました事、とても感謝しております。

東北新生園での九年間、園の皆様との様々な交流を通して、大変多くの事を学ばせていただきました。皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございます。

最後に、入所者の皆様や職員の皆様に支えられ、今日の日を迎えることができました。

深く感謝致しますとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

定年退職を迎えて

看護師 浅野 明子

この度、三月三十一日をもちまして定年退職を迎えることになりました。私が新生園に採用されたのは、平成二十三年四月、あの東日本大震災がおきて間もなくの時でした。幸いにも新生園は、大きな被害がなかったという事で、入所者の皆様の生活も落ち着かれていたように感じました。あれから十年、月日の経つのは早いものだと感じています。

最初の配属場所は、第一メープルケアセンターでした。その頃、第一メープルケアセンターは、一階から三階まで五十名以上の入所者の方々が入寮されていて、名前を覚えるのに必死でした。五月のゴールデンウィーク過



ぎ半ば頃から夜勤に入りました。夜勤の勤務者は二名で、私達新採用者は、二・三階を担当しました。入所者の方々の処置に入る時間はおおよそ決まっていたので、時間に遅れないよう、処置内容を間違えないよう、自分なりに紙に書き写し、それを何度も繰り返しみながら業務をこなしていくだけ、それで精一杯でした。入所者の方々との会話もなかなかできなかったように思います。準夜勤務二回目の時だったと思います。夜七時に訪室することになった入所者の方のところに、緊張しすぎて一時間早く六時に訪室してしまいました。「俺のところに来る時間、間違っていないか。今の時間に来ることになっていたか。」と聞かれ、一時間早く訪室してしまったことに気づきました。ちよつと怖いイメージがあり、話しづらいと思っていた方だったので、怒られるのではないかと思いつつ謝ったのですが、「今、やっていいぞ。」

と言つて下さりホツと安心して処置をさせてもらったことが思い出されます。私は特に不器用で、何を行うにも時間がかかってしまいました。まだ慣れていない夜勤を行っていた時、一緒に夜勤を行っていた先輩の看護師の方が、私の業務の進み具合を気にかけて下さり、手伝いに來て声をかけてくれた時のありがたさ、今もはっきり憶えています。新生園で働き始め十年、入所者の方々、職員の皆様方と出会い、多くの事を学ばせていただきました。優しく、丁寧に指導いただき感謝しております。皆様、これからもお身体を大切に過ごして下さい。

大変お世話になり、ありがとうございました。



定年退職を迎えて

准看護師 石川 正子

この度、令和三年三月三十一日をもちまして、定年退職を迎える事となりました。

昭和五十七年に病休代替で新生園に看護師としてお世話になり、三十八年が過ぎました。病棟に配属になり、先輩方に指導を頂きながら夜勤もしていました。当時は、午前中に入浴・外科処置・注射が主な仕事で、午後から外科材料作りを行っていました。外科処置用カストの準備は、病棟で行っていました。もちろん他の職場もそうでした。時代とともに医療は進歩し、それにともなつて私達も勉強会等で頑張っておりますが、ついていくのも大変になってきております。入職当時、新

生園で一番若い看護師さんでしたが、今は還暦を迎え、身体のあちこちに年相応のガタつきが出てきました。それでも、もうひとふんばり。入所者の方々の頑張っている姿を思いながら退職を迎えたいと思います。楽しい事、辛い事もありましたが、入所者の方々の優しい言葉やスタッフの皆様の沢山の支えを頂き、何とか定年を迎える事が出来ました。

入所者の皆様、職員の皆様、どうぞこれからも御身体を大切に過ごされますよう心からお祈り申し上げます。長い間、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《盲腸の手術》

斎 藤 照 雄

私は腹痛を訴え七月〜九月末まで
五人のドクターに
内科診察で診てもらった
「どこが痛いんですか？」
「へそ下三〜四センチの所が痛いです」

「へそ下三〜四センチの所が痛かったが
今は全体のようです。」
「おお右足を上げてみな」
「あがりません」
「このクランケはアップペだ
午後から手術をするから用意しておけ」
そこでナースが手術の準備を
してくれた。
また、寮に常時備えてあった担架に
乗せられナースと療友の協力により
手術場へ
既にナース五人と検査官が
待っていた。
「下半身の麻酔薬を打つから
腰をもっと曲げてくれ。」と
検査官が言った
「はい打つぞ」と言って注射をした
「痛い」

「おお虫だな」虫下しを
診察する度に出して下さった。

私はそれを飲んだが
腹痛がいつこうに病まず
下痢をするばかり
十月の初めに腹痛が酷くなり
起きるのが辛く眠っていたら
療友が「朝ご飯だ、起きろよ」と言った
「私は腹痛が酷くて起きるのが辛いんだ」
「おおそうか、困ったな」
往診を頼んであげよう」と
往診を頼んでくれた。

午前九時頃六人目のドクターが
往診にきてくれた
「クランケはどこだ、どこだ？」
「はい、ここです。」
「どこが痛いんだ？」

「痛い程効いたんだ」
手術台に横になって
ドクターが来られた
あとナースに消毒と目隠しを命じた。
「局部麻酔は僕が打とう」
ちよっと間をおいて、
とがった何かで下半身を突つついた
「ここは痛いか？」
「痛くありません」
上半身を突つくと
「痛い！」
「効いてるようだ。じゃあ、いくか！」
五回位にわたり切ったようだ。
するとナースの悲鳴
私にも異様な匂いが即座に分かった。
「腹膜炎だ。ハエが来た、おい、おい。」
「ドクター殺しました」
「盲腸がこの辺にあるはずがない。」

ないな、もつと大きく切ろう。
 しかし、ないな
 腸を出すしかないな」
 ノーボンに腸を引っ張り出した
 「うー、苦しい」
 「我慢して頑張ってたね」とナースの声
 「さうて盲腸はどこにあるんだろう。
 こんな所に癒着。
 へそ三々四センチ下に癒着していた」
 その言葉を聞いて五人のドクターが
 虫だと言った謎が解けた。

【選評】

《盲腸の手術》

斎藤 照雄

作者が持っている穏やかな雰囲気がよく出てい

る作品です。
 時間が経った今だから言えるのかも知れませんが、病や手術の辛さを客観的に据えたことで説得力を持ちました。ドクターなどとのやりとりや虫の据え方もとても面白い。



短歌

皆川 二郎 選

◇ 入 選 ◇

今野 きよし
 面会の母を送りて山道に背中を見せて
 後振り向かず

【選評】

面会に来て下さった母親を送り、
 山道にて別れたのであるが、寂し
 さを我慢して振り向くことなく別
 れたのであろう。下句に作者の心
 境が言外に表現されている。何歳
 の頃のことであるかわからないが、

島貫 徳子
 目となりて世話せし夫に先立たれ手さぐり
 しつつ向かう食卓

【選評】

先立たれた夫と作者の現状を詠
 んでいる一首であり、感傷的な言
 葉を使わず事実を淡々と表現して
 いるが、焦点を絞りの確に表現さ
 れているために、その寂しさがよ
 り強く伝わってくる。人間はいず
 れ死を迎えるのであるが、その寂
 しさを乗り越えて日々懸命に生活
 されている作者に心からのエール
 を送りたい。

菊地尚樹
幼児寝てようやく僕の番です。ね五歳の犬が撫でろとせがむ

【選評】

五歳の愛犬に言葉はないが、作者と幼児との関係を知っているから、幼児が眠りにつくまではじつと我慢していたのであろう。作者もそのことはよく理解している。愛犬がせがんでいる情景が見えるようである。

◇佳作◇

今野きよし
北側に残りし雪の固まりのぽかぽか陽気に形崩れる

食事終え朝の空気の静まりて今日一日の動き始まる
「どうですか」症状聞かれ返事する言葉を見つけ返事するのみ

菊地尚樹

公園に雪白く積み声上げて黄帽の幼駆けて橈引く

島貫徳子

旅立ちし夫に別れの菊供え遺影を見つめ涙あふれぬ
霊安堂近くの赤き色もみじライトアップに故人を偲ぶ
友もまた夫を亡くしてまだ二年我を氣遣い夕餉に誘う



◇入選◇

今野きよし
熨付けし言葉輝く寒牡丹

【選評】

藁などで囲われる寒牡丹優しく可憐、熨付けてではなく熨付けしこの「し」の言葉こそ輝く姿であり様々の角度から見る作者の微笑む姿が見えて来る。

今野きよし
医師の妻顔の明るし福寿草

【選評】

何も思わず顔の明るしは常日頃明る人すなわち医師の妻、福寿草と医師の妻との取合せが面白い福寿草と金色の笑顔甘えて存えて下さい。

斎藤照雄

手を洗い爪切り初日拝みけり

【選評】

手を洗うのは日常の事、改めて爪を切つて繰り返し手を洗う元日の朝はすがすがしい、初日を拝ましての拍手のひびき身も心も引き締まり、今年も明るく歩き始めたい。

◇ 佳 作 ◇

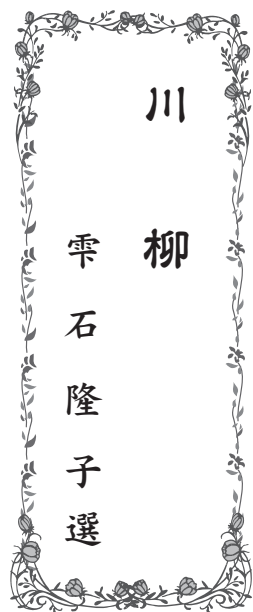
今 野 きよし

冬木立隣り同志で見つめ合う
大声を出して初雪迎えけり
一望に心引かれる枯野かな
動く物一つも見えぬ枯野かな

斎 藤 照 雄

あの頃は凛々しかったなかれ雄花
病む足を引きずり春を迎へけり
北帰行せまり両者の池せわし
よもぎ餅あの日食べたな母の味

❄️ 新生園のスイレンの池にて ❄️



◇ 入 選 ◇

《人位》 斎 藤 照 雄

ハ氏病の看板背負ってすたこらいばら道

【選 評】

ハンセン氏病患者の艱難辛苦の
いばら道。「すたこら」と逃げ去る
ような歩み、人生にハ氏病者の厳
しさが偲ばれて感慨深い。

《地位》 長 沼 蓮 花

スマホから晴れ着姿の便りあり

【選 評】

コロナ禍での成人式も様変わり。
帰省できぬスマホの晴れ着姿に目を
細めるも、自粛生活の昨今の二コマで
あろう。

《天位》 今 野 きよし

残された日々は短し山笑う

【選 評】

「山笑う」は春の季語。芽吹き
始めた華やかな山の形容だが「残
された日々は短し」と言う深刻な
眩きとは対照的で、明るさに救わ
れる。

各センター協同作品



◇ 佳 作 ◇

大 平 尚 拓

白きもの木々の化粧よ雪かむり
わくわくと知らないものを見つけ出す

今 野 きよし

誉め言葉喜び聞きぬクレマチス

千 歩

雪つもる野にも山にも心にも
マイナスをプラスに変えて春を待つ

小 林 喫 茶

リュウグウへ亀には乗らずはやぶさで
巣ごもりで大つごもりの鐘を聴く

父母の時代故郷帰り差別残ってた
斎 藤 照 雄

長 沼 蓮 花

娘らの帰省叶わず年が明け
リモートの飲み会酔いがまわらない

消防訓練

庶務班長 松本 宣仁

令和二年十一月二十六日午後二時から搬送訓練を兼ねた消防訓練を行いました。今年は皆様がご存じのとおり新型コロナウイルスの感染予防の関係で、例年行っている総合訓練は行わず、規模を縮小し、かつ有意義な訓練となるように実際に模擬患者を職員が搬送する実訓練を選択しました。このような実訓練は聞くところによると新生園では初めて行うと聞きましたので、段取りや安全面等を考慮し、万全の体制で臨むために色々と下準備を行ってきました。

まず、訓練を実施する現場を決めなければ

があり、毛布だと、強度的には適当でしたが、持ちにくいという点が出て、中々良い物が見つかりませんでした。最終的には敷き布団の上に敷くマットが良い感じの担架等の代用として考えました。

しかし、世の中には良い物があるもので、ディスプレイ（使い捨て）のストレッチャーなるものがありました。結局それを採用し、購入してもらいました。ただし、本当の緊急時にはシートや毛布でその代用を兼ねることは念頭に置いておきます。

さて、準備も整い訓練当日を迎えました。当日の段取りとしては、最初に登米市消防西出張所消防員の方から搬送の説明をお話してもらいました。実際ストレッチャーを床に置き模擬患者を乗せるところから説明してもらい、搬送する職員は四名を想定して、先ほどの流れで、四名の職員が模擬患者をストレッチャー

なりませんでしたが、そこは同年に新築で使われ、まだ訓練等を実施したことのない総合診療棟の第一病棟を訓練場所として決めました。第一病棟は総合診療棟の三階になり、当然模擬患者の搬送訓練も三階から一階までの訓練となり、災害時なのでエレベーターも使用出来ない状態で搬送経路は非常階段を想定し、搬送は、人力で行うこととなります。自分は外の施設で実際階段を使った患者の搬送を行ったことがありましたので、結構な力が必要だとは思っておりました。

準備としては、まず模擬患者を乗せる担架等を確認しましたが、この作業に合う物品で既製品となっていているものはありませんでした。代用として考えていたのが、シートや毛布を代わりに使えないかと思い、適当な代用品を探しました。帯に短し襷に長しとは良く言ったもので、シートですと、強度的に不安

チャーに手順どおり乗せ数メートル運んでもらい、集まっていたいた職員の方々に目と耳で説明を受けてもらいました。

そして次はいよいよ実訓練に移ります。訓練は第一病棟東西の非常階段を使用し、四班編制で東西に二班ずつ配置しました。それではいよいよ東西の二班が訓練を開始します。各現場には消防員の方がサポートで付いていただき、その場でも再度説明をしていたくようにし、訓練を開始しました。職員の方々は手際よく模擬患者をストレッチャーに乗せ、非常階段を慎重かつ安全にそして素早く階段を降りていきました。特段搬送に詰まることなく、また模擬患者が壁等に当たるところもなく無事一階へ搬送し終わりました。続いての班も無難に搬送をし、一階へ降りていきました。一応の基準を設けるため、各班の搬送時間を計測したところ、各班とも二分

〈消防訓練の様子〉

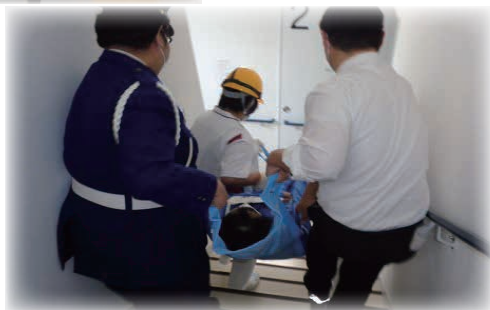
①第1病棟（3階）
東西より



②4班編制で
2班に別れ



③非常階段を下り



④1階へ搬送



弱の時間がかかっておりました。これが早いのか遅いのかは別として、おおよそ三階から一階へ患者搬送にかかる時間は二分弱との目安にはなったかと思っています。各班とも搬送時には、患者さんに話かけ不安にならないようにする等、搬送作業以外にも心配りを行っておりました。無事四班が訓練を終え、最後となる消防署からの講評をいただき、さらには、訓練に参加していただいた職員にも感想を話してもらい、色々今後に繋がるお話をいただきました。

最後になりますが、感謝の念を込め今回の訓練において、おいでになりました登米市消防署西出張所の消防署員の皆様、訓練に参加していただいた各職場の職員の皆様、裏方として手伝っていただいた職員の皆様、忙し中参加ありがとうございました。また、実際に火災により、この訓練で行った患者搬送が

行われないように、常日頃の火の元の確認をしていきたいことと、他の災害により、患者搬送の必要が生じた場合にはこの訓練が生かされることを思い今回の訓練の感想と致します。



新型コロナウイルス感染症と人の心

看護助手 熊谷信裕

二〇一九年十一月に中国武漢市付近で初めて確認された新型コロナウイルスは、世界的流行に発展し、現在も終息の兆しが見えない状況です。二〇一九年十二月末に報道され始めましたが、当時、私は身近に感じることなく、変わりない生活を送っていました。二〇二〇年一月、感染者の増加、マスク不足が報道され始め、「対岸の火事」ではなくなり、私たちの生活は一変、新型コロナウイルスという、見えない敵を避けながら、生きていくことになりました。マスクの着用、ソーシャルディスタンス、不要不急の外出の自粛、今では生活の基本となっています。

このような状態で行動を制限され続けると、様々な問題が生じてきます。目に見えることでは、経済の後退、医療機関の崩壊などですが、報道にもあるように「差別・偏見」が目立つようになってきています。特に医療機関で働く職員にとっては、大変厳しい目が向けられている状態です。

二〇二〇年四月、看護師などの子供が保育園から受け入れ拒否されるケースが相次いでいるという報道がされました。受け入れを拒否された看護師は、保育園に預けることができず、出勤することができなかつたということです。保育園は他の子供への感染を心配しての行動だったということで、現在はこのような対応をするところはほぼなくなりました。

しかし、二〇二〇年十二月の調査では看護師などのおよそ二十%が差別や偏見を受けた経験があると答えており、二十七%の方が「家

族や親族が周囲の人から心無い言葉を言われた」と回答しています。また、残念なことに、新型コロナウイルス感染者を受け入れている医療機関では、看護師の離職率が二十%を超えたという報道もありました。このような状態であっても、医療従事者は命を守るという使命感から頑張っています。

また医療機関以外にも、需要が高まっている宅配業者が「菌をうつしている!」と罵倒されるなどの報道を目にすることもありました。

この差別・偏見はなぜ生まれるのでしょうか。科学や医学の正しい知識が乏しいため、「感染したくない、近くにいたただけでうつるかもしれない」という漠然とした不安から、感染者や感染の可能性が高いとされる人を遠ざけようとする行動をとってしまうのかもしれない。差別や偏見の考えは子供をはじめ、周囲に広がっていきます。感染した人やその

家族、周囲で働く人を遠ざけようとする行動は、医療の崩壊、社会の分断につながります。このような状態になると、現在の新型コロナウイルスの猛威が終息に向かうのはもっとなんてになってしまうことでしょう。

現在の私たちがするべきことは、偏り間違った知識で善悪を決めることなく、正しい知識を身につけた上で、人に対してではなく、根本的な原因に対して対策していくことを考えます。

医療従事者に対して、偏見ではなく、「温かいエール」を送ってくれている市民、著名人の方々も沢山います。全文の紹介は難しいため、その一部を紹介させていただきます。

「毎日ニュースを見る医療従事者さんの顔や声は辛さ、悲しさ、悔しさ、寂しさ等、見ただけで心が痛いです。医療従事者さんの力が僕たちの力にもなっています。頭を上げたくない程、ありがとうございます。」

Yumi Ronie

Cherry Blossom



春よ来い、



東北新生園イルミネーション点灯式

令和2年12月1日



入所者お一人おひとりにプレゼントをお配りしました。



昨年よりも
イルミネーションの数が増え
より一段と輝きました。

